

いじめ認知件数

小学校総数	751
中学校総数	267
合計	1018

認知件数学年内訳
(被害者の学年)

小学校1年	64
小学校2年	73
小学校3年	172
小学校4年	162
小学校5年	126
小学校6年	134
特別支援学級	20
中学校1年	105
中学校2年	121
中学校3年	41
特別支援学級	0
合計	1018

月別報告件数

月	小学校	中学校	合計
4月	50	24	74
5月	66	18	84
6月	108	53	161
7月	160	50	210
8月	0	0	0
9月	56	21	77
10月	89	43	132
11月	128	23	151
12月	94	35	129
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0
合計	751	267	1018

認知件数から

・「心の相談アンケート」後の、教育相談が実施されることで認知件数が多くなる傾向がある。児童生徒にとって、教育相談の場が安心して先生に話せる機会になっている事が伺える。また、教育相談を行うことで、相談しやすい関係が生まれていることが報告されている。

いじめの様態【集計】

いじめの様態	小学校	割合	中学校	割合	小計
からかい・悪口	365	48.6%	148	55.4%	513
からかい・悪口 仲間外れ・無視	30	4.0%	21	7.9%	51
からかい・悪口 ネットでの誹謗中傷	0	0.0%	11	4.1%	11
からかい・悪口 暴力	43	5.7%	10	3.7%	53
からかい・悪口 恐喝	4	0.5%	0	0.0%	4
からかい・悪口 その他	16	2.1%	8	3.0%	24
仲間外れ・無視	47	6.3%	11	4.1%	58
仲間外れ・無視 ネットでの誹謗中傷	0	0.0%	1	0.4%	1
仲間外れ・無視 その他	5	0.7%	0	0.0%	5
ネットでの誹謗中傷	2	0.3%	17	6.4%	19
暴力	128	17.0%	8	3.0%	136
その他	111	14.8%	32	12.0%	143
合計	751	100.0%	267	100.0%	1018

その他の内容について

・私物へいたずら、嫌がらせ、落書き、物隠しが報告されている。軽い気持ちで行う様子がうかがえるが、芽が小さいうちに摘み取ることで必要な対応ができていると考える。
・小学生の暴力については、通りすがりに叩く、蹴るという悪意のないちょっかいをかけるケースが見られる。友達の間を引く行動として、望ましい行動をとるためにソーシャルスキルを身に着ける体験的な学習を計画的に取り組んでいく必要があると考える。

いじめ発見のきっかけ【集計】

発見のきっかけ	小学校	割合	中学校	割合	小計	
アンケート	183	24.4%	14	5.2%	197	
子ども	本人	208	27.7%	122	45.7%	330
	児童生徒	75	10.0%	46	17.2%	121
大人	学級担任	70	9.3%	17	6.4%	87
	関係教員	10	1.3%	10	3.7%	20
	養護教諭	1	0.1%	2	0.7%	3
	保護者	190	25.3%	53	19.9%	243
その他	14	1.9%	3	1.1%	17	
合計	751	100.0%	267	100.0%	1018	

まとめ

・教育相談を実施した月は、認知件数が高くなっていることから、教育相談が児童生徒にとって、安心して相談できる機会となっているとらえることができる。
・いじめの様態については、「からかい・悪口」を主に発展していくものが、小学校で6割、中学校で7割5分を占めている。このような行為を予防するために、日ごろからどのようなことに気を付けて子どもたちの心を育んでいけばよいのか、心理的アプローチ等、未然防止に資する取組を展開できないものか、専門家の意見をもとに検討していきたい。
・いじめ発見のきっかけとしては、中学校では本人の割合が高く、小学校では、アンケート、本人、保護者が同程度となっている。いじめ見逃しゼロに向けて、この結果を踏まえた必要な手立てを充実させたい。
・課題としては、加害とされた児童生徒、またその保護者に対する関わり方が難しくなっていることである。特に、意図せず加害となってしまう児童生徒、その保護者への関わり方は、丁寧さを求められるため、対応を誤りそこからまた新たな問題へと発展しないように対応力の向上を図ることが喫緊の課題である。